

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL098-868-6895

FAX098-863-1495

経営者への活きた言葉

異分野の研究開発費を割いてチャレンジする 塚越 寛 (伊那食品工業会長)

1. 日本の弱電メーカーがグローバル市場で苦戦を強いられている。昭和 50 年代頃だろうか。日本の多くの会社が「ぶらぶら社員制度」を導入していた。ぶらぶら社員制度とは、一定期間、社員を日常の仕事から解放し、自由な発想を促すものだ。「あなたは 1 年間、仕事はしなくてもいい。だからインドでもどこでも好きな所へ行ってらっしゃい。ただどこでどんなことをしたのかりポートだけは出すようにと社員に伝える。成果は絶大で、多くの画期的な商品が生まれたと言われる。パナソニックやキャノンなど弱電メーカーも採用していた。
2. ところがやがて、制度の中身が変化していった。「海外に行くならきちんと下調べをして目的を持って行きなさい」というように。そのうち、多くの会社が制度をやめた。目的もなく海外に行くのは、ムダ。コスト削減というわけだ。日本のメーカーはコスト削減に注力しすぎてはないか。人件費が安いからと工場を海外に移したが、行く先は見えていた。
3. ここで、会社の価値が問われる。成長こそが会社の価値なのか。規模を追うから海外に出たくなるが、海外に出たところで、価格競争に陥れば、人件費がもっと安い国に主導権が移るだけだ。では、海外に出ないとしたらどうすればいいのか。価格競争に陥った仕事を潔くやめることだ。ただし、そうなる前に違う業種に転換しておく必要がある。全く違う分野にあえてチャレンジする。コスト削減ばかり懸命にならず、異分野に研究開発費を割いては、どうだろうか。 (参考:「日経ビジネス」2015 年 5 月 25 日号)

経営者のための経済学

日本人が最も食べる果物 (バナナ)

1. 日本人が最も食べている果物はバナナだ。2014 年の一世帯 (2 人以上の世帯) 当たり 1 年間購入量は 18 kg と、2 位のミカンの 13 kg を大きく引き離す (総務省統計局「家計調査年表」)。人気の理由は「値頃感」だ。主な輸入商社などで構成される日本バナナ輸入組合が 2014 年に実施したアンケートで、バナナを食べる理由の 1 位は、「手頃な値段だから」が 65% でトップだった。
2. 価格はこれまで変化に乏しかった。1965 年時点で 1 kg 当たり平均価格は 218 円。自由化で輸入が急増した 1972 年に一時 124 円まで急落するが、1975 年以降は 180~250 円の範囲を上下に推移している。ちなみに、ミカン価格は、1965 年の 1 kg 当たり 100 円から 2014 年には同 347 円まで上昇した。卵などと並び、バナナが「物価の優等生」といわれるのもうなずける。

(参考:「週刊東洋経済」:2015 年 6 月 6 日号)

人事・労務について

11 年振り美容部員を正社員採用 (資生堂)

1. 資生堂は、美容部員「ビューティコンサルタント (BC)」を、11 年ぶりに正社員採用するという戦略転換を打ち出した。2016 年 4 月入社予定の新卒者約 500 人を正社員 BC として採用し、並行して、2017 年までに現在 2000 人いる契約社員 BC を正社員化も進める方針だ。化粧品大手のコーセーも資生堂に先駆け、昨年から美容部員の正規採用と契約社員の正社員化を再開した。
2. 資生堂の正社員化決断の背景には、後継者の育成がある。現在、資生堂が擁する正社員 BC 8000 人のうち、20 代はわずか 10% (2013 年 4 月時点) と高齢化が進む中、若手層の顧客の取り込みに向けた BC の若返りと、将来を担う優秀な人材の確保が欠かせないというわけだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2015 年 5 月 30 日号)

古典に学ぶ

忘れる功德 (その 4)

(解説) ところが、正気に返った華子は、ひどく腹をたてた。妻をたたきだし子供を叱り、はては剣をとって儒者をおいかけるしまつ。村人がとりおさえてわけをたずねると、男はいった。「まえに、忘れっぽかったときは、のんびりと、天地があるやらないやら、気にもとめなかった。いま気がついてみるとどうだ。これまでの何十年間、つもりつもったくだらぬことを、いっぺんに思い出してしまった。成功したこと、失敗したこと、損したこと、得したこと…。これから一生こんなものに悩まされてはかなわない。少しの間でいいからまた忘れたいものだ」。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)